

2024年度忘年会・ 新入会会員紹介の会報告

大西淳子

2024年12月19日(木)午後6時より、東京・アルカディア市ヶ谷にて、2024年度忘年会・新入会会員紹介の会が開催された。冒頭、司会の鶴田伊津より、「今朝は東京、横浜、京都、大阪、奈良、高知、長崎、熊本で初雪が観

あること、候補にあがった方々の活動をさらに長く見て、改めてお贈りした方がよいのではという結論に至ったこと、などである。また、本年の活動として、

・公開講座「協会賞歌集を読み返す2」の会場を(学士会館の休館に伴って)四ツ谷「プラザエフ」に移して開催したこと(会員向けにアーカイブ動画を公開していること)

・3月の「現代短歌フェスティバル in 奈良」
・10月の全国短歌大会
・オンライン上のイベント「現代短歌スペース」
「短歌の文化祭」を盛大に実施し、会員以外にも多く参加したことに触れた。そし

測された」とアナウンスされると、会場は一気になごやかな雰囲気となった。
はじめに、栗木京子理事長より、開会の挨拶があった。その中で、今年度の現代短歌大賞が受賞者なしになった経緯が述べられた。選考は穂村弘、坂井修一、大松達知、栗木京子の4名で行ったこと、この一年で優れた歌集・歌書は多くあり、何名かの候補者はあがったこと、しかし、この賞は長い期間にわたる業績全体に対して贈られる性格を持ち合わせているもので



て、新たな理事たちが様々に工夫し、今後も有意義で楽しい企画を用意しているので、ぜひ参加してほしいと述べた。

続いて、坂井修一 副理事長が、今年度新たに当協会に入会したメンバーの中から、当日参加の15名を紹介した。ひとりずつ壇上にあがり、理事長・副理事長を囲み写真撮影を行った。その後、新会員のうち、仁和優子、蓬田真弓、仲西正子が挨拶した。

次に、乾杯を前に小池光のスピーチがあった。小池は1979年入会とのこと。「バルサの翼」で現代歌人協会賞を受賞した折の賞状を先日見つけたエピソードを語った。そこには、本来「貴歌集」と書かれるべきところを、誤って「既歌集」と書かれていたという。賞状を読み上げた、当時の近藤芳美理事長は一瞬言葉に詰まったが、何事もないうちに最後まで読み切ったそう。この漢字の間違いを知っているのは、近藤芳美と自分だけという貴重なお話。四十五年を経たの披露だった。

しばし歓談ののち、再び新会員より挨拶があった。池田裕美子、川口慈子、斎藤千代、阪本ゆかり、嶋稟太郎、千葉優作、渡邊範子、陸月都、宮本清、廣野翔一、原田和子、花山周子の12名。

また、遠方から参加の方々の中から新潟の松田慎也、京都の小見山泉、青森の福士りかがスピーチ

をした。

そして、最後に、藤原龍一郎が挨拶をした。藤原の入会は、小池のずっと後で、一度「短歌人」の高瀬一誌に推薦されたが、その時は入会ならず、二度目の推薦で会員になれたというエピソードを語った。また、企画がリニューアルされ、新鮮になった、新入会の方々、今後力を発揮し、また歌人としての誇りを持って頑張ってきて欲しいと述べた。

今回、現代短歌大賞の祝賀会はなかったが、全国より約百名の会員が集い、終始あたたかな雰囲気、盛会のうちにお開きとなった。(文中、敬称は略しました。)



現代歌人 協会会報 182